

# えいよう通信



## がん哲学外来～言葉の処方箋～ を学んで

先日、このタイトルである『がん哲学外来～ことばの処方箋～』という講義を受けてきました。講師は2008年に設立した『特定非営利法人がん哲学外来』の理事長で順天堂大学病院教授の樋野興夫先生です。

がんを患った多くの患者さんやそのご家族が、病気になったことで自分がこれまでどう生きてきたか、これからどう生きるべきか、この後何をすべきかを真剣に考えます。

一方、医療現場ではなかなか患者さんやご家族の精神的苦痛の緩和まで軽減して差し上げることが難しいのが現状であるという考えから、その隙間を埋めるべく「がん哲学外来」が生まれたとのこと。

科学としての癌を学びながら、哲学的思考を取り入れていく。

まずは集まりやすい場所で、立場を超えて集う場所＝がん哲学外来カフェが始まりました。

メディカルカフェという形でどんどん全国に広がり、現在150カ所でカフェが開催されています。またメディアに取り上げられ注目されるようにもなりました。

病院での常設や協力企業も増え組織の強化の為に2013年からは、【一般社団法人がん哲学外来】として活動されているそうです。

また、2011年には、隙間を埋める活動を担う人材の育成と活動を推進するために「がん哲学外来市民学会」が市民によって設立され、「がん哲学外来コーディネーター」養成講座も開設されたとのこと。

「がんであっても尊厳をもって人生を生きることのできる社会」を目指し、より多くのがん患者さんが垣根を超えて様々な人との対話により「病気であっても病人ではない」と言え、安心した人生を送れるよう寄り添い続けたいという思いですと綴っておられます。

ちなみに埼玉県内には10カ所のメディカルカフェが開設しています。

その中の1カ所が春日部にもあります。ご興味のある方は

『がん哲学外来カフェ』で検索を。

では講義中に先生が何度も仰っていた言葉をご紹介しますね。

『悩みのない人生なんてありません。でも、明日の事まで心配するに

は及びません。考えたい時は1日1時間と決めて、とことん悩み考え、

その後は好きな事をして過ごしましょう』と。また、『コロナ禍、自分でコントロール出来ることと出来ない事を識別しましょう。コントロール出来ない事で悩まない事が大切。一喜一憂しない事。』

それから『意志は人なり』この言葉は樋野先生の師である新渡戸稲造から感銘を受けたそうですが、流石だなと思いました。ごもつともです。最後に私に響いた言葉は『悠々とした精神で生きる』です。

この言葉の意味は先生の著書で明かされていますが、周りを見てもこの精神を持っておられる方は中々…。

この機会に自分のこれからの1つでもプラスしていきたいです。

この様に私達はたくさんある活字から学びを得ることが出来ます。読書がお好きな方は、学びを得たいというお気持ちを強くお持ちなのだと思います。人生は学びの連続！皆さんにも素敵な学びがありますように。



## <<食中毒を予防しましょう>>

蒸し蒸しとする季節がやってきました。こまめな手洗いと予防3原則を実践して細菌を食卓に持ち込まないようにしましょう！

もう6月ですね。1年の半分！(≥▽≤)早すぎますね。

もう少し季節を愛でながらゆっくりと過ごしたいといつも思っているのですが…。今月も宜しくお願いします。小林

